



平成 28 年 5 月 14 日
九州地方整備局
0 時 3 0 分

【平成 28 年熊本地震対応】

地震後の立野ダムに関わる区域の状況について

【第 1 報】

- 平成 28 年熊本地震の発生を受け、地震発生直後からこれまでにダムサイト及び周辺のドローンによる上空調査、河岸の斜面状態の現地調査等を実施してきているところです。
- これまでの概略的な観察においては、立野ダム本体の建設予定地付近には、表層土等のごく小規模な崩落以外に大きな崩落は認められず、ダム本体を支持する岩盤に異常はないものと考えられます。
- また、ダム貯水池の河岸では、表層の弱い部分を中心に崩落が見受けられますが、ダム建設の支障となるような情報はありません。
- さらに、ダム本体部分の地盤を横断するようなズレは確認されていません。
- 今後、さらに詳細な調査を行い、安全性を確認する予定です。
- そのために、無人化施工機械等も使用しながら、河川内にアプローチするための道路の復旧に着手しています。

【問い合わせ先】 国土交通省 九州地方整備局 河川部

河川計画課長 坂井 佑介

電話：092-471-6331 (代表)

090-2511-9675 (携帯)

立野ダム周辺の状況について

白川左岸側からダム建設
予定地上流を望む



ダム貯水池の河岸では、
表層の弱い部分を中心に
崩落が見受けられますが
ダム建設の支障となるよ
うな情報はありません。

ダムサイト付近を上流側から望む



立野ダム本体の建設予定地付近
には、表層土等のごく小規模な
崩落以外に大きな崩落は認めら
れず、ダム本体を支持する岩盤
に異常はないものと考えられま
す。

①現地調査の結果、ダム本体部分の地盤を横断するようなズレは確認されていません。



ダム本体部分から約500m離れた位置を北向山断層が通過しているという従前の調査結果と合致していることから、既知の北向山断層に沿ってズレが生じたものと考えられます。

さらに詳細な調査をするために、無人化施工機械等も使用しながら、河川内にアプローチするための道路の復旧に着手しています。



位置図



写真①②



被災状況



写真①遠隔操作状況



写真②無人化施工機械（バックホウ、ブルドーザ、不整地運搬車）による復旧状況